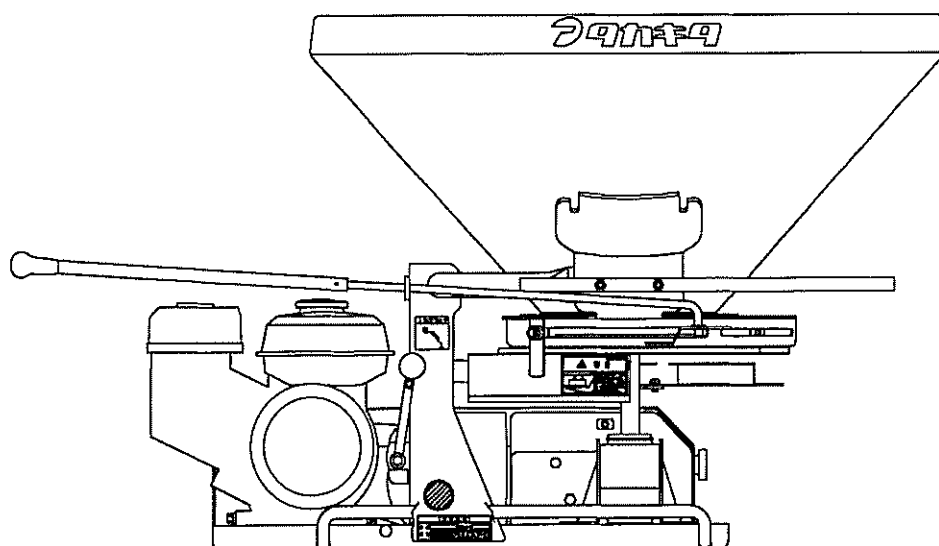


取扱説明書及び部品表



フルーツキャスタ
FC1210・FC1210Y



本製品を安全に、また正しくお使いいただくために
必ず本取扱説明書をお読みください。
お読みになった後も大切に保管してください。

株式会社 **タカキタ**

は じ め に

このたびは本製品をお買い上げいただき、ありがとうございました。

この取扱説明書は、**フルーツキャスタ**の取扱方法と使用上の注意事項について記載してあります。ご使用前には必ず、この取扱説明書を熟知するまでお読みの上、正しくお取扱いいただき最良の状態でご使用ください。

- お読みになったあとも必ず製品に近接して保存してください。
- 製品を貸与または譲渡される場合は、この取扱説明書を製品に添付してお渡してください。
- この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかにお買い上げの販売店または当社にご注文ください。
- 本書は、**注意**として知っておくとお得な製品の性能や、製品自体の損傷防止に関する留意事項を書いてあります。
- なお、本製品については不断の研究成果を新しい技術として直ちに製品に取り入れておりますので、お手元の製品と本書の内容が一致しない場合もありますので、あらかじめご了承ください。
- ご不明なことやお気付のことがございましたら、お買い上げの販売店または当社にご相談ください。

⚠ 警告サイン

⚠ 印付きの下記マークは安全上、特に重要な項目ですので、よく読んで必ずお守りください。

⚠ 危険 その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。

⚠ 警告 その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。

⚠ 注意 その警告に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示します。

目 次

 安全に作業するために	1
--	---

本製品の使用目的とサービスについて	7
-------------------	---

各部の名称とはたらき	8
------------	---

運搬車への搭載	9
---------	---

- | | | | |
|-------------|---|---------------------|---|
| 1. はじめに | 9 | 4. 開閉レバーの長さ調整 | 9 |
| 2. 搭載前の注意事項 | 9 | 5. エアクリーナー用吸入ホースの固定 | 9 |
| 3. 搭載方法 | 9 | | |

運転に必要な装置の取扱い	10
--------------	----

- | | | | |
|--------------|----|---------------|----|
| 1. エンジンスイッチ | 10 | 3. シャッター開閉ロット | 10 |
| 2. 入力クラッチレバー | 10 | | |

作 業 方 法	11
---------	----

- | | | | |
|------------------|----|----------------------------|----|
| 1. 作業手順と要点 | 11 | 7. 傾斜地での作業 | 14 |
| 2. 肥料の投入 | 12 | 8. ケイ糞・粉状有機肥料の散布について | 14 |
| 3. 散布量の調整 | 12 | 9. 移動するときは | 14 |
| 4. エンジンの回転速度について | 13 | 10. 運搬車のトラックへの
積込み・積降ろし | 15 |
| 5. 散布作業の方法について | 13 | 11. トラックおよびトレーラでの運搬 | 15 |
| 6. 散布幅について | 14 | | |

作業前の点検について	16
------------	----

点検一覧表	16
-------	----

簡単な手入れと処置	17
-----------	----

- | | | | |
|-----------------|----|---------------------|----|
| 1. エンジンの点検・調整 | 17 | 5. 肥料について | 19 |
| 2. エンジンのエアクリーナー | 17 | 6. 運搬車のエンジン保守点検（重要） | 19 |
| 3. Vベルトの張り調整 | 18 | 7. 日常の管理について | 19 |
| 4. 散布方向の調節 | 18 | 8. 長期格納時の手入れ | 19 |

不 調 診 断	21
---------	----

付 表	22
-----	----

- | | |
|-----------|----|
| 1. 主要諸元 | 22 |
| 2. 主な消耗部品 | 22 |

⚠ 安全に作業するために

取扱説明書と本機に貼ってある ⚠ 表示ラベルをよく読み、機械の使い方をよく理解した上で使用してください。また、機械を点検して異常がないかを確認してから使用してください。

機械を他人に貸すとき、または他人に運転させるときは、運転の仕方を教え、本書も貸与し必ず読んでもらってください。

1. 本機を使用するにあたって

(1) 使用する人の条件

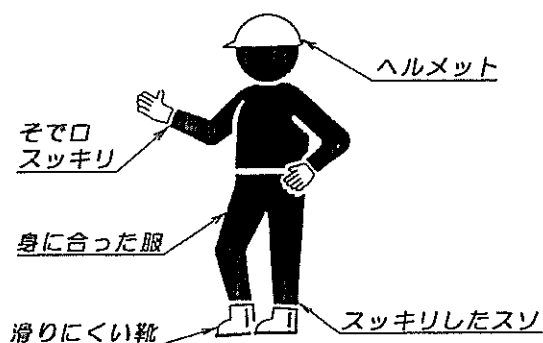
次の項目に該当する場合は本機を使用しないでください。

- 飲酒したとき。
- 過労・病気・薬物の影響・その他の理由により正常な運転ができないとき。
- 妊娠しているとき。
- 取扱方法を熟知していない人。



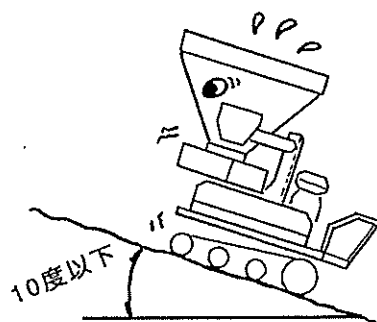
(2) 使用する人の服装

機械に巻き込まれたり、滑って転倒したりする事故を予防するため、首巻き・腰タオルをしないで、ヘルメット・滑り止めの付いた靴を着用し、だぶつきのない作業に適した服装で安全な作業をしてください。



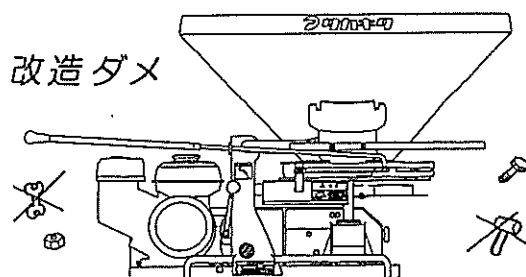
(3) 積載量の厳守

本機は、積載量を限定しています。表示以上の積み過ぎは危険です。積載量は平地で100kg、傾斜地作業は最大傾斜10度までとし、そのときの積載量は80kgです。



(4) 機械の改造厳禁

純正部品や指定以外の部品を取付けないでください。



(5) 使用目的以外への使用禁止

肥料の散布を目的として作られた機械です。

他の目的には使用しないでください。

▲ 安全に作業するために

(6) 機械を他人に貸すとき

取扱方法をよく説明して、使用前には『取扱説明書』を必ず読むように指導してください。



2. 点検・整備をしてください

(1) 1年毎の定期点検・整備を

整備不良による不具合や事故を防止するために、1年毎に定期点検・整備を受け、機械が最良の状態で作業ができるようにしてください。

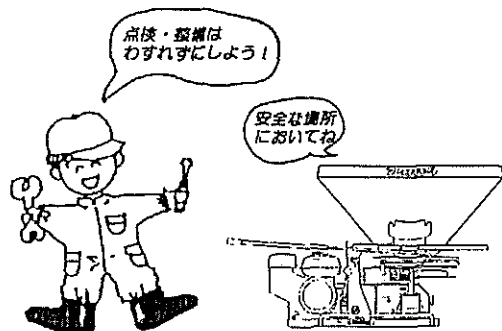


(2) 作業前の点検・整備を忘れずに

ご使用になる前と後には必ず点検・整備を行ってください。

(3) 点検・整備・掃除をするとき

点検・整備・修理・掃除するときは、交通の危険がなく、機械が転倒したり動いたりしない平坦で安定した場所でエンジンを止め、駐車ブレーキまたは車止めをしてから行ってください。

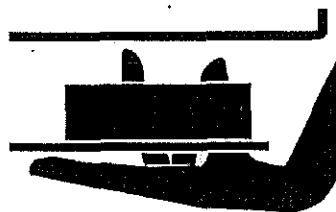


(4) 点検・整備は加熱部分が冷めてから

マフラやエンジンなどの加熱部分が十分に冷めてから点検・整備をしてください。守らないと火傷する恐れがあります。

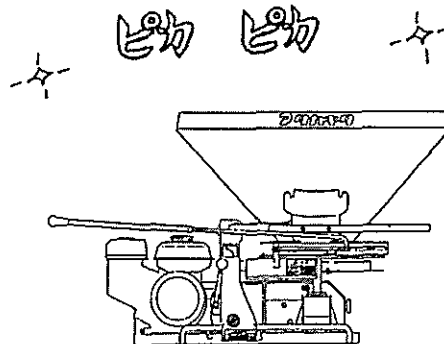
(5) 慣性回転に注意

クラッチを切ってもスピナーは慣性力でしばらく回転しています。完全に停止するまで触れないでください。



(6) 機械を常にきれいに

火災予防と性能維持のため、回転部への草などの巻付きやたまりを取り除き、機械を常にきれいにしてください。



エンジン・マフラ・ベルトカバー・バッテリーなどに枯草、芝草がたまっていると、おもわぬ火災の原因となることがあります。機械を常にきれいにしてください。

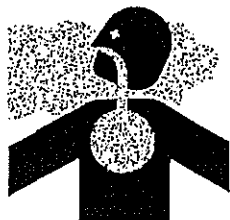


⚠ 安全に作業するために

(7) 排気ガスには十分注意

屋内などでエンジンを始動するときにはエンジンの排気ガスによる一酸化炭素中毒の恐れがあります。

エンジンの始動は、風通しのよい場所で行い、やむをえず屋内で始動する場合には、十分換気を行ってください。



(8) カバーを必ず取付ける

カバー類などの防護装置を取外すときは、必ずエンジンを止めてから行ってください。

また、取外したカバー類は必ず元どおりに取付けてください。守らないと傷害事故を引き起こす恐れがあります。



(9) 注油・給油をするときは

エンジンを止め、回転部分が完全に停止してから行ってください。

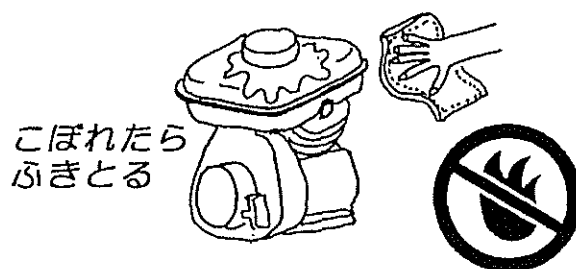
(10) 燃料補給時は火気厳禁

燃料補給時は、くわえ煙草やマッチ・ライターなど裸火照明は絶対に使用しないでください。守らないと燃料に引火し、火災を起こす恐れがあります。



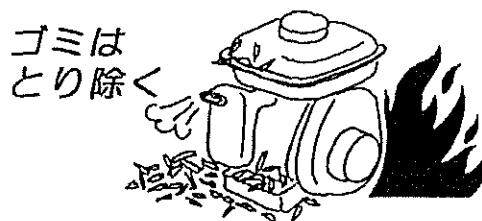
(11) こぼれた燃料はふき取る

燃料を補給したときは、燃料キャップを確実に閉め、こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。守らないと火災事故を起こす恐れがあります。



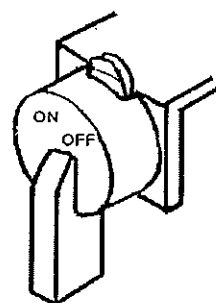
(12) マフラ・エンジンのゴミは取り除く

マフラやエンジン周辺に、ワラクス・ゴミなどが付着していないか作業前に点検し、付着していれば取り除いてください。守らないと火災事故を起こす恐れがあります。



(13) ストップスイッチの動作確認を

配線コードの外れなどがいないかを点検し、ストップスイッチをOFFにしてエンジンが停止するかを必ず確認してください。守らないと傷害事故を引き起こす恐れがあります。



⚠ 安全に作業するために

(14) 長期格納するとき

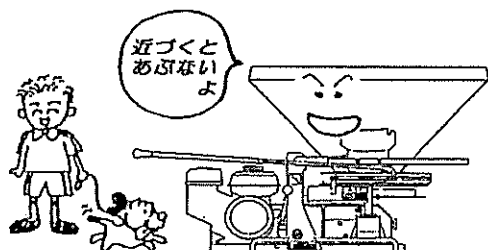
機械を清掃し、回転部は十分注油して、屋内の平坦な場所に保管してください。



3. 作業・移動するとき

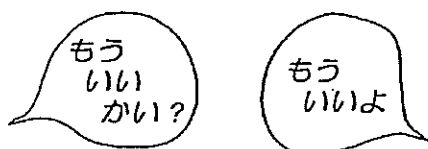
(1) 人や動物を近づけない

特に子供には十分注意し、近づけないようにしてください。



(2) 二人以上で作業するとき

二人以上の共同作業では、お互いに声を掛け合うなどして、安全を確かめ合いながら作業してください。



(3) エンジンを始動するときには

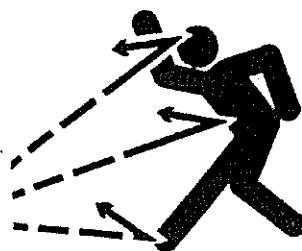
操作レバーが必ず中立になっていることを確認し、周囲の人に合図をして安全を確かめてから始動してください。守らないと傷害事故を引き起こす恐れがあります。

安全確認

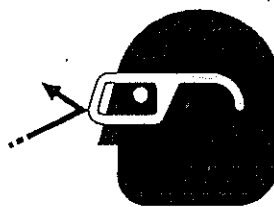


(4) 散布作業するとき

散布作業中は肥料が半径約6mの前方範囲に飛散します。その範囲に人がいないことや障害物がないことを確認して作業してください。



また、肥料が飛散して目や呼吸器に入る恐れがありますので、必ず保護メガネと保護マスクを着用して作業してください。



保護メガネ着用
保護マスク着用

(5) 急な発進・停止・旋回・スピードの出しすぎ禁止

スピードの出しすぎ、急な発進・停止・旋回は、事故の原因となるだけでなく、機械の寿命も縮めますので行わないでください。

また、起伏の多いほ場や傾斜地は危険です。作業スピードは、極力落として作業を行ってください。

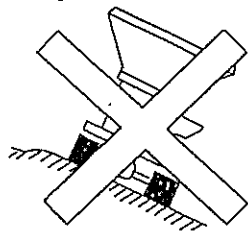
(6) 傾斜地で作業するとき

次のことを必ず守ってください。

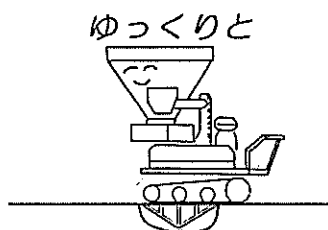
- ① 斜面の等高線に平行、または斜めに走行すると横転の危険があります。斜面の作業は、必ず直角方向に走行してください。

⚠ 安全に作業するために

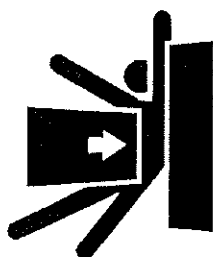
- ②チェンジ操作は行わず、変速位置をあらかじめ低速にして速度を下げ、特に下り坂ではエンジnbrakeを使用してください。



- (7) 溝や畦を横断したり軟弱な所を通るときは
スリップや転倒による事故を防ぐために、幅・長さ・強度が十分あるスリップしないアユミ板をかけ、最低速度で通ってください。



- (8) 作業途中で運転席より離れるときは
平坦な場所に停車し、エンジンを止め、走行クラッチを切り、駐車ブレーキを掛けてください。
- (9) 後進して作業するときは
後方に障害物のないことを十分確認し、本機と障害物の間に人や動物を挟まないようにしてください。



- (10) 高温油に注意してください

- ①高温油による傷害を防止するために作業直後の注油やミッションのオイル交換はしないでください。作業前か十分温度が冷えてから行ってください。
- ②火傷やケガを負った場合は、速やかに医者の診療を受けてください。

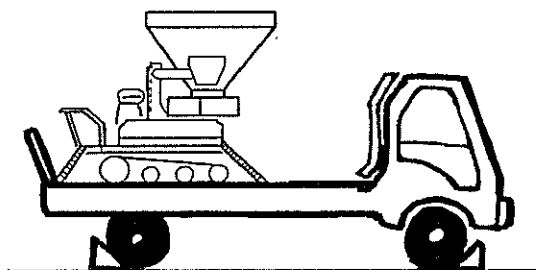


4. 道路走行・輸送するときは

- (1) 公道走行はできません

運搬車に本機を乗せて公道を走行すると道路運送車両法に違反します。公道を移動するときは、トラックなどで運送してください。

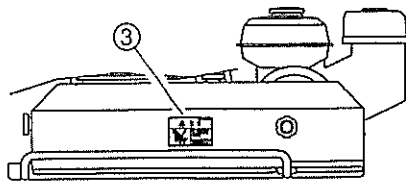
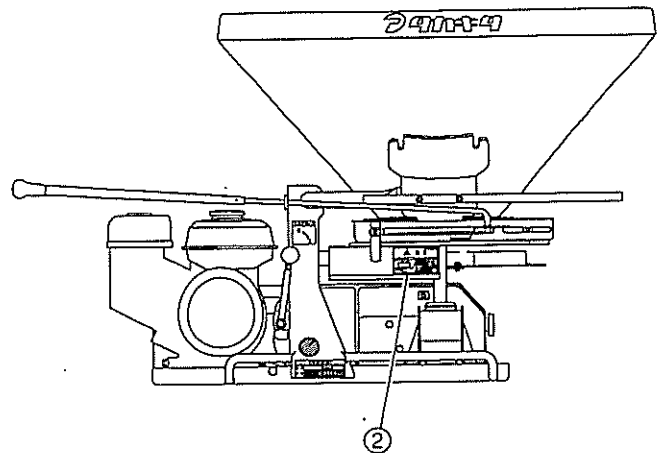
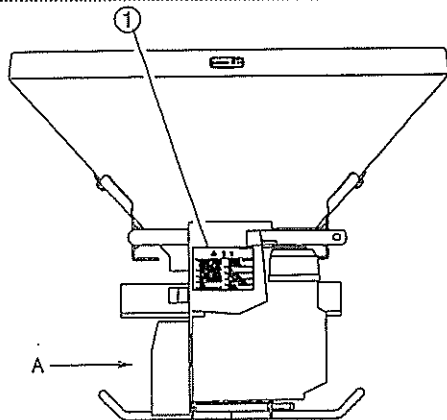
- (2) トラックなどへの積込み・積降ろしは
平坦な場所でトラックが移動しないようエンジンを止め、サイドブレーキをかけ、車止めをしてください。積込んだ機械は、強度が十分にあるロープで確実に固定してください。



以上、機械の取扱いで注意していただく主だった事項を記載しましたが、これ以外にも本文の中で ⚠ 印を付けて安全上の注意事項を表記しております。

⚠ 安全に作業するために

5. 警告ラベルの貼付位置



A矢源図

①部品コード 001204500041

001204500041

⚠ 注意

1. 取扱いを誤ると事故や故障の原因となりますので、必ず取扱説明書を熟知するまでお読みください。 2. 全部のラベルが所定部分に貼付けられているようにしてください。 3. エンジン始動前に機械の周りに人がいないことを確認してください。 4. 作業中は人や動物を近づけないでください。 5. 運転席をはなれるときには、必ず	エンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてください。 6. 斜面での駐車時は歯止めをしてください。 7. 点検・調整等はエンジンを止めて実施してください。 8. 手、足及び衣服を運動部分に近づけないようにしてください。 9. 道路走行は、道路交通法を遵守してください。
---	---

②部品コード 001206000290

001206000290

⚠ 警告

回転中のスピナーに触れると傷害をうけます。エンジンを切り、スピナーが完全に停止するまで触れないで下さい。

③部品コード 001206000800

001206000800

⚠ 注意

・この部品を取り外す時は必ずエンジンを止めてからにしてください。

・はずしたまま運転するとケガをするおそれがあります。

警告ラベルの取扱い注意事項

- (1) 警告ラベルはいつもきれいにして傷をつけないように、また汚れている場合、中性洗剤で洗い、軟らかい布で水気を拭いてください。
- (2) 傷ついたり、汚れたり、はがれた場合は、お買い上げの販売店または当社に注文し新しいラベルを元の位置に貼ってください。
(ラベルをご注文の際は部品コードをご連絡ください。)
- (3) 警告ラベルが貼ってある部品を交換する場合は、新しいラベルを注文して元の位置に貼ってください。
- (4) 新しいラベルを貼る場合は、汚れを拭き取り、乾いた面に貼ってください。
気泡は隅の方へ押しながら抜いてください。

本製品の使用目的とサービスについて

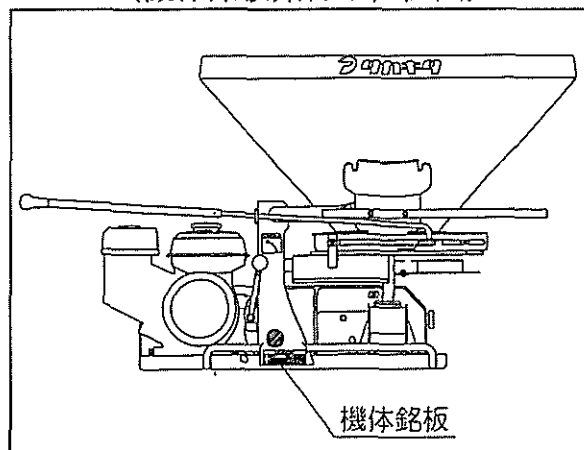
本製品の使用目的について

本製品は、粒状・砂状の肥料の散布作業にご使用ください。
使用目的以外の作業や改造などは、決して行わないでください。
使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりません。

アフターサービスについて

機械の調子が悪いとき、不調診断に従って点検・処置しても、なお不具合があるときは、お買い上げいただいた販売店、農協、または、お近くの当社営業所までご連絡ください。

(機体銘板貼付け位置図)



【連絡していただきたい内容】

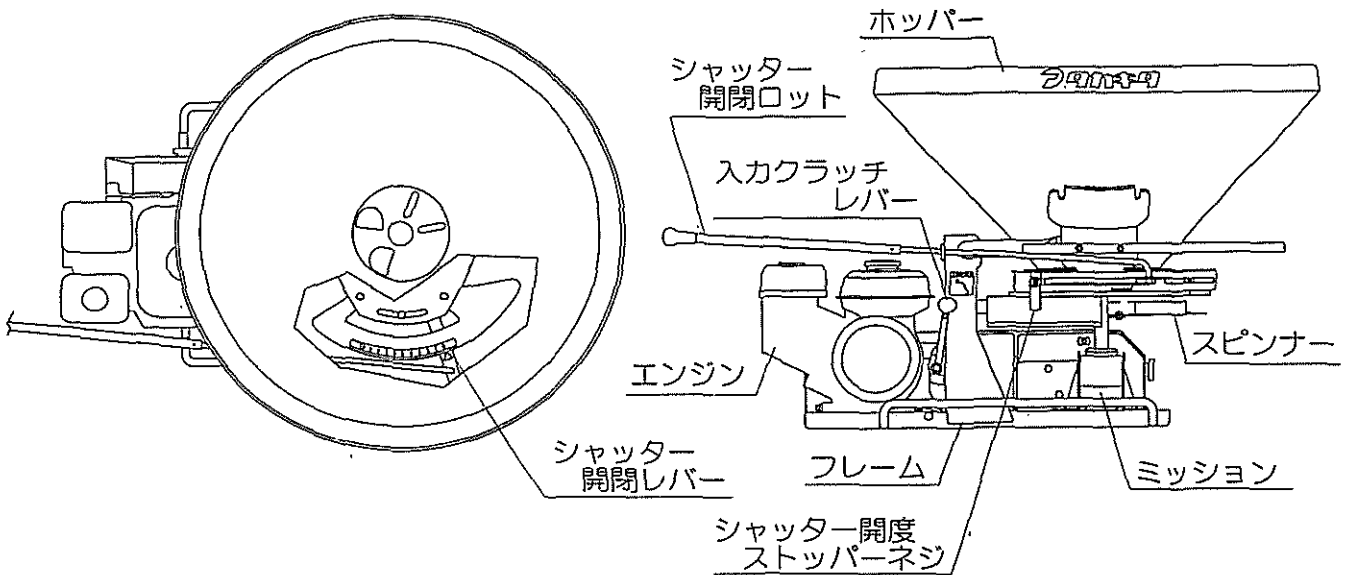
- 品名と型式
- 機体No. (SER-No.)
- ご使用状況は？
(どんな条件でどんな作業をしていたときに)
- どれくらい使用されましたか？
(約〇〇アールまたは約〇〇時間使用後)
- 不具合が発生したときの状況をできるだけ詳しく教えてください。

※機体No.は、上図に示す機体銘板に打刻しております。

【今後の参考のため、次の空欄に機体No.などを記入しておいてください。】

品 名	フルーツキャスタ
型 式	
機体No. (SER-No.)	
購入年月日	年 月 日
販売店名	TEL ()

各部の名称とはたらき



名 称	は た ら き
ホッパー	肥料を投入するジョウゴ形の器です。
フレーム	全体の構成部を保持します。
シャッター開閉レバー	肥料散布シャッターの開閉及び散布量を調整するハンドルです。
シャッター開度ストッパーネジ	シャッター開閉レバーを適正な位置で停止させます。
シャッター開閉ロット	シャッターの開閉を手元で操作するためのロットです。
スピンナー	肥料を飛散させる回転円板です。
エンジン	動力源・燃料はレギュラーガソリンを使用します。
入力クラッチレバー	散布部への動力を「入」・「切」するためのレバーです。
ミッション	エンジン動力を散布部へ伝えます。

運搬車への搭載

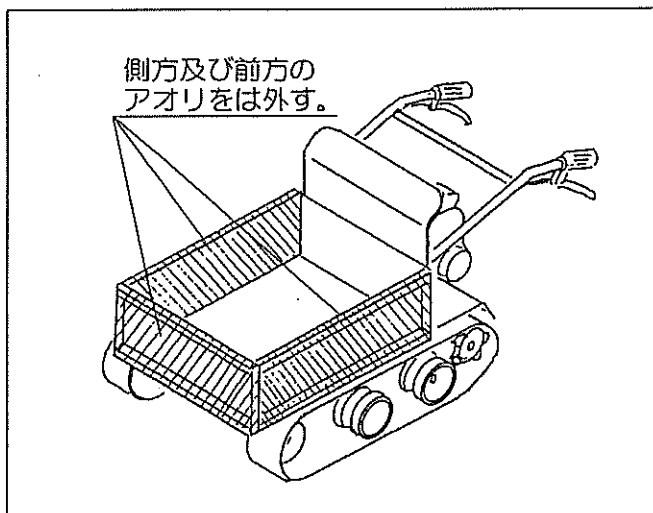
1. はじめに

本機は、お手持ちの運搬車（クローラ型・車輪型等）や軽トラックの荷台に搭載して、肥料の散布作業をするものです。

2. 搭載前の注意事項

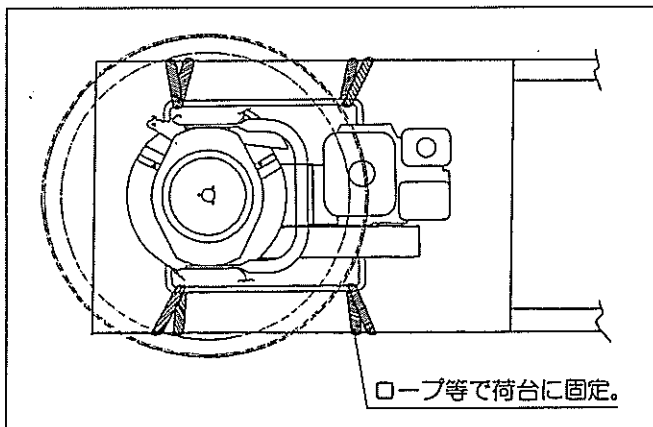
荷台のアオリは必ず取り外すか、あるいは開けておいてください。

閉じたままですと、搭載条件によってはエンジンの排気ガスを再度エアクリナーから吸入することがあり、エアクリナーが短時間で汚れてしまい、性能低下の原因となるばかりでなく、エンジンの寿命を大きく低下させます。



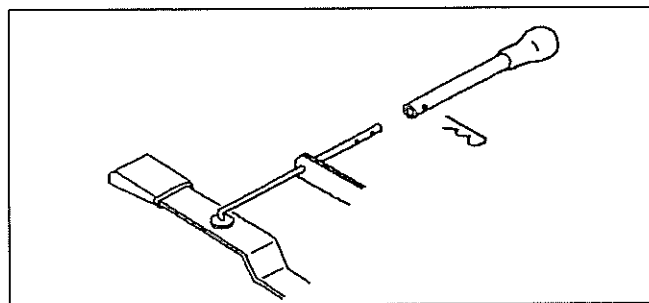
3. 搭載方法

本機を荷台の上に乗せ、「ロープ」もしくは、市販されている「ラチェット付き締結バンド」等を利用して荷台にしっかりと固定してください。



4. 開閉レバーの長さ調整

シャッター開閉ロットが手元で操作できるよう、ロットの長さを調整してください。



5. エアクリナー用吸入ホースの固定

（クボタエンジンのみ）

クボタエンジンの場合、エアクリナーの空気吸入口にホースが取り付けられています。

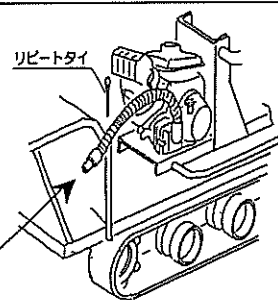
これは散布された肥料やエンジンの排ガスをできるだけ吸入しないようにするためのものです。

本機散布口から、できるだけ離れた位置にホース吸入口がくるように運搬車にリピータイで固定してください。

また、ホース吸入口は運搬車用エンジンのマフラー排気口からも必ず離してください。更にホース吸入口は雨水が入らないよう必ず下向きにしてください。

吸入口は本機肥料散布口及び運搬車のマフラー排気口から、できるだけ離してください。

吸入口は下向きにしてください



注意

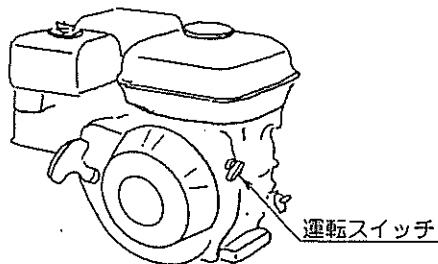
ホース吸入口は、散布した肥料やエンジンの排気ガスを吸込まない位置にセットしてください。守らないとエンジンが不調となるばかりでなく、エンジンの摩耗が早まり、寿命を大きく低下させる原因となります。

運転に必要な装置の取扱い

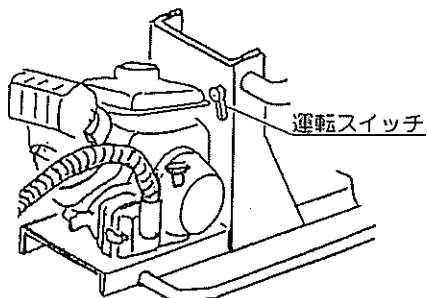
1. エンジンスイッチ

エンジンの始動時は「ON」にしてください。また、停止する場合は「OFF」にしてください。

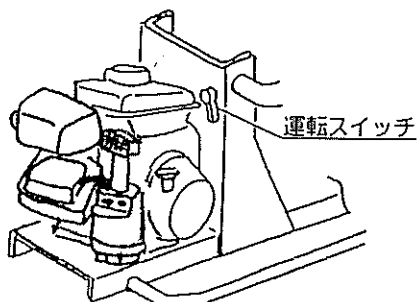
ホンダエンジン



クボタエンジン



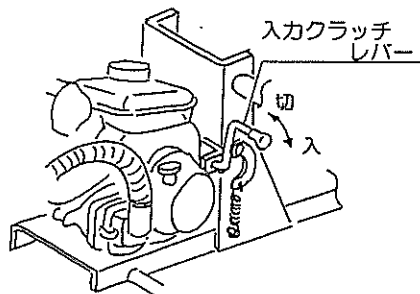
ヤンマーエンジン



注意

エンジンの取扱いの詳細については別冊のエンジンの説明書をお読みください。

2. 入力クラッチレバー



入力クラッチレバーを「入」の方向にするとクラッチがつながり、散布部のスピナー及びアジテータが回転します。

警告

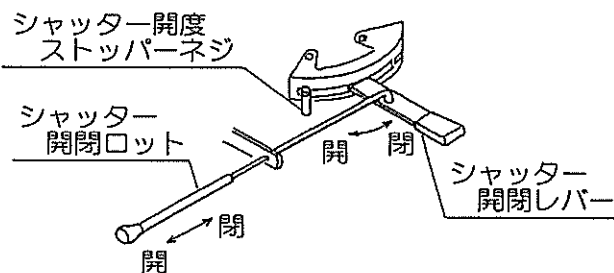
- 入力クラッチレバーを「入」にするときは、まわりに人がいないことを確認のうえ、ゆっくりとつないでください。
- エンジン始動時は、突然スピナーが動きださないよう、入力クラッチは必ず「切」にしてください。

3. シャッター開閉ロット

シャッター開閉ロットにより、散布の開始・停止を行います。

シャッター開閉ロットを手前に引くとシャッターが開き、散布を開始します。

元に戻すと散布シャッターが閉じ、スピナーが回転していても肥料の散布は、停止しています。



また、シャッター開閉ロットにより散布量の調整も行います。

シャッター開閉ロットを手前に引くほど、繰り出し量が増えます。(散布量の調整は12ページを参照してください。)

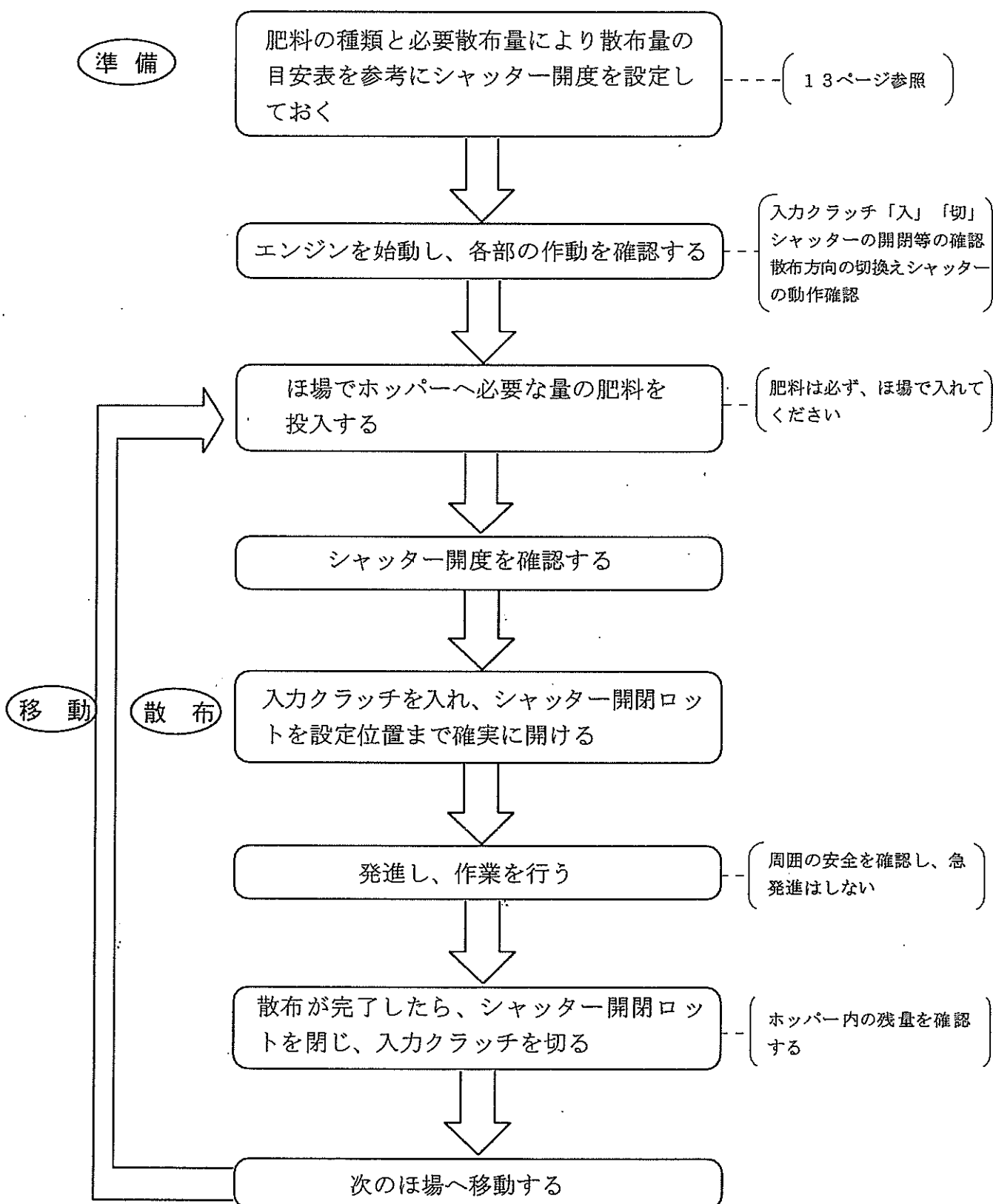
注意

シャッターを閉じた状態でスピナーを回転させると、ホッパー内のアジテータ周辺で肥料が圧縮され、ブリッジ現象による肥料の繰り出し不良や本機損傷の原因となります。

シャッターを閉じた状態でのスピナーの回転はやめてください。

作業方法

1. 作業手順と要点



作業方法

2. 肥料の投入



警告

本機の積載量は120ℓ（最大100kg）です。規定以上の積込みを行うと機械の破損だけでなく、安全な走行作業が行えません。十分注意してください。

- ①運搬車を水平な場所に移動し、エンジンを停止して駐車ブレーキをかけてから肥料を投入してください。
- ②肥料は散布に必要な適正量のみホッパーに入れてください。不要な量の肥料は、後作業にムダを発生させます。

注意

肥料は必ず、散布ほ場へトラック等で、あらかじめ運んでおいてから散布の直前にホッパーへ入れるようにしてください。ホッパー内に肥料を入れたまま運搬すると、運送中に肥料がホッパー内で圧縮されるため、ブリッジ現象による繰り出し不良や散布ムラの原因となります。

3. 散布量の調整

散布量の調整は、シャッター開閉レバーの開度位置により行います。シャッター開閉レバーの目盛は0から10までありますが、1の位置から徐々に開きはじめ、10の位置で全開となります。

散布量の目安

粒状肥料の10a当りの散布量（kg）の目安（比重0.9時）

有効散布幅 8m基準時

車速 シャッター開度	1 km/h	2 km/h	3 km/h	4 km/h
1	40	20	13	10
2	114	57	38	29
3	264	132	88	66
4	414	207	138	103
5	525	263	175	131
6	639	320	213	160
7	795	395	263	197
8	975	488	325	244
9	1125	563	375	281
10	1389	695	463	347

作業方法

◆シャッター開度位置の選定

散布量の設定は前ページの表を参考にシャッター開閉レバーの開度位置を設定してください。

《例》

10アール当り粒状肥料を140kg散布したい場合、表中の140kgに近い数値を探すと次のような例となります。

時速1km/h 開度2 → 114kg

時速2km/h 開度3 → 132kg

時速3km/h 開度4 → 138kg

時速4km/h 開度5 → 131kg

以上の例から、ほ場条件・作業条件に適した組合せを選定してください。

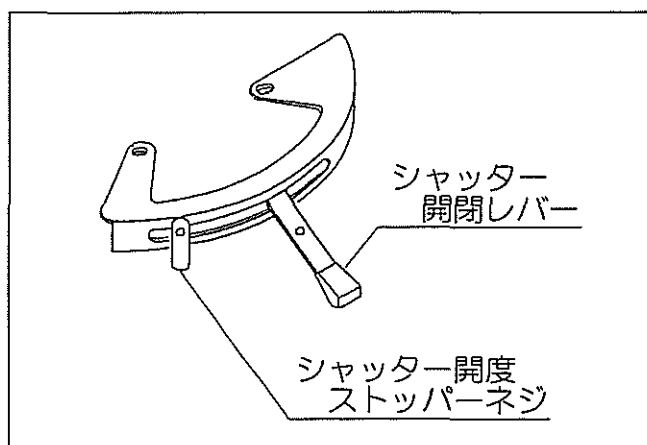
注意

目安表の数値は参考値としてお考えください。実際には肥料の種類、散布条件、ほ場条件により差異が生じる場合があります。

最初に使用されるときは、目標散布量の半分に設定して、2度播きされることをおすすめします。

◆シャッター開度ストッパーネジの固定

シャッター開度を設定されましたら、シャッター開度ストッパーネジで固定をしてください。



4. エンジンの回転速度について

散布機のエンジン回転速度を上げるほど、肥料の散布距離は長くなりますが、逆にアジテータによる肥料の破碎が多く発生するようになります。

エンジンの回転速度は、肥料の散布距離及び破碎状態を見ながら調整してください。

本機のエンジンは最大回転速度1700min⁻¹ (rpm) にセットしてありますが、通常は1600min⁻¹ (rpm) 程度のエンジン回転速度で使用されることをおすすめします。

5. 散布作業の方法について

◆作業手順について

①入力クラッチを入れ、シャッター開閉ロットを設定開度位置まで確実に引いてください。

②肥料が本機前方に散布されるのが確認できたら、運搬車の走行クラッチを入れ、走行を開始してください。

注意

散布範囲は散布する肥料により異なりますが、前方への散布距離は最大5～6m、左右への最大散布幅は10～12mあり、作業開始位置と旋回位置はこの距離を考慮して作業してください。

⚠ 危険

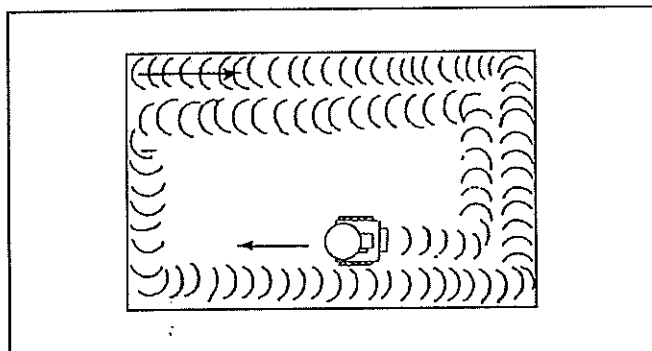
走行開始時には、ホッパー内に肥料が満載されているため、重量のバランスをくずしやすい危険な状態にあります。急発進はやめてください。

注意

より均一な散布を行うためには、散布作業中の走行速度を一定に保つようにしてください。

作業方法

- ③ほ場内での走行は、下図のように巡回しながら散布すると均一な散布ができます。



注意

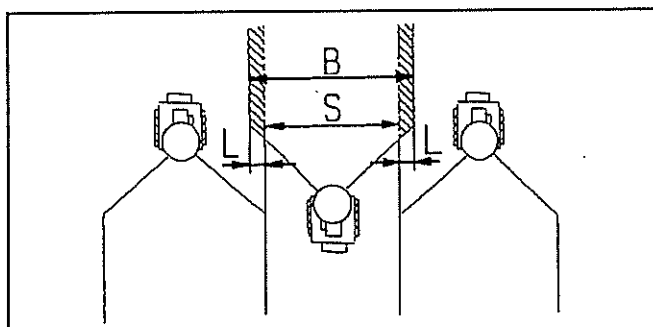
ほ場が広い場合は、作業前にホッパー容量と散布量を考慮してあらかじめ、ほ場の各所に肥料袋を置いておくと、能率の良い作業が行えます。

注意

散布作業に入る前には、側方前方に人や動物がいないことを確認してください。

6. 散布幅について

- 散布幅は肥料の大きさ、スピナーの回転速度、風などに影響されます。一般的には、大きい粒子の肥料の場合はスピナーの回転速度が速いほど散布幅が広がります。
- 肥料の種類によっても散布幅が変わります。その種類や特性により散布幅に適切な重複が必要です。



	粒状	砂状
S : 有効散布幅	6 ~ 8 m	2.5 ~ 3.5 m
L : 重複幅	1 ~ 2 m	1 ~ 2 m
B : 最大散布幅	8 ~ 10 m	3.5 ~ 4.5 m

7. 傾斜地での作業

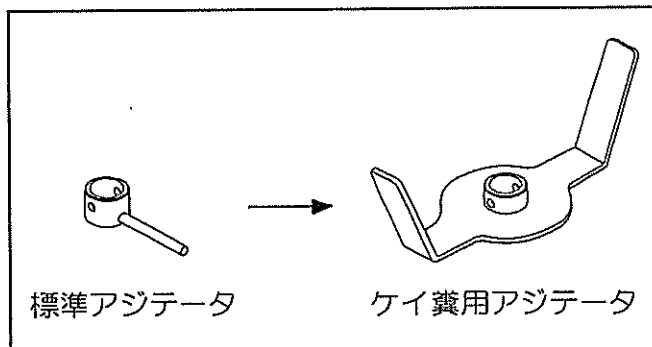
S S道以外では斜面に対して直角方向に走行し、巡回は速度を落とし、急旋回をしないでください。

警告

斜面の等高線に平行、または斜め走行や急旋回は横転の危険がありますので決して行わないでください。

8. ケイ糞・粉状有機肥料の散布について

ケイ糞や粉状肥料を散布する場合は、ホッパー内でブリッジ現象が発生しやすいため、ケイ糞用アジテータに交換してください。



注意

通常の粒状化成肥料には、ケイ糞用アジテータは使用しないでください。抵抗が大きいため、肥料の粒を砕いてしまい、有効な散布が行えません。

9. 移動するときは

①運搬車に搭載した場合

運搬車のまま公道を走行すると、道路運送車両法に違反します。

公道を移動するときは、トラック等で運搬車ごと運搬してください。

②軽トラックに搭載した場合、そのまま移動してください。

作業方法

10. 運搬車のトラックへの積込み・積降ろし

トラックへの積込み・積降ろしは、次の要領で行ってください。

おもわぬ事故につながる恐れがありますので積込み、積降ろしとも十分注意してください。

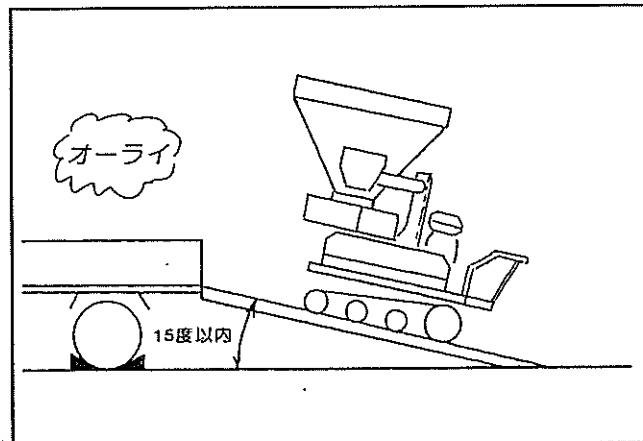
警告

- 積込み・積降ろしの場所は、周囲に危険物のない、平坦で安定した場所を選んでください。
- アユミ板のフックを荷台に段差のないように確実にかけてください。
- 周囲は機械が不意に動いたときに危険ですので立たないでください。
- クローラ式運搬車の場合、サイドクラッチを操作してアユミ板の上で進路変更を絶対に行わないでください。
クローラがアユミ板から外れて転倒する恐れがあります。
- アユミ板とトラックの継ぎ目を越える時は、急に重心が変わりますので十分に注意してください。
特に、スピードの速い時には転倒の恐れがありますので、必ず遅いスピードで行ってください。

- ① トラックおよびトレーラへの積込み・積降ろしは平坦地を選び、補助者1名の立合いのもとで行ってください。
- ② 積込み・積降ろしに使用するアユミ板は滑り止めがあり、運搬車の重量に十分耐えられるものを使用し、地面との傾斜角度が15度以内になる長さのものをご使用ください。
- ③ アユミ板のフック部をトラックの荷台部に確実にかけて外れないことを確認してから、運搬車の積降ろしを行ってください。

④ 積込み時の速度は最低速度で安全運転をしながら行ってください。

⑤ トラックおよびトレーラへの積込みは、必ず前進走行で行ってください。



11. トラックおよびトレーラでの運搬

警告

丈夫なロープを運搬車にかけ、確実に固定し、運搬車の駐車ブレーキをかけてください。

守らないと、急ブレーキをかけた時などに荷台から運搬車が転落する恐れがあります。

運搬車を運搬する時は運搬重量以上の積載量をもち十分な広さを有するトラックまたはトレーラを使用し、運転には坂道やカーブに注意して安全な速度を厳守してください。

作業前の点検について

作業の安全確保と、故障を未然に防ぐには、機械の状態をよく知っておくことが大切です。作業前の点検は、欠かさず行ってください。

警告

- 取外したカバー類は必ず取付けてください。衣服が巻き込まれたりして危険です。
- 調節・整備を行うときは、必ずエンジンを停止させてから行ってください。
- エンジンが熱い間は、注油・給油は絶対にしないでください。やけどをする恐れがあります。
- 燃料補給時は、くわえタバコ・裸火照明は絶対に使用しないでください。また、燃料補給後は、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいに拭き取ってください。まもらないと火災の原因となります。

点検一覧表

項 目	内 容	参照ページ	チェック
前回使用の異常箇所	修理、補修が完全に行われているか	—	
損傷・汚れ・ボルトの緩み	車体の損傷、緩み、ガタつきがないか	—	
エンジンオイル	オイル量と汚れ、油もれ	(エンジンの取説)	
エンジンの燃料	燃料の量ともれ	(エンジンの取説)	
エンジンのエアクリーナ	エアクリーナの汚れ (重要)	17	
入力クラッチレバー	エンジンを始動し、散布部の「入」「切」を確認	10	
アジテータ・スピナーファン	摩耗していないか	—	
各部の回転	アジテータ・スピナーの回転は正常か	—	
シャッター開閉ロットの作動	スムーズかつ開閉が確実か	10	

簡単な手入れと処置

警告

- ①各部の調整をするときは、エンジンを停止させて回転部が完全に止ってから行ってください。
- ②取り外したカバー類は必ず取り付けてください。

1. エンジンの点検・調整

※エンジンについては別冊の「エンジン取扱説明書」を必ずお読みいただき、日常の点検・整備には万全を願います。

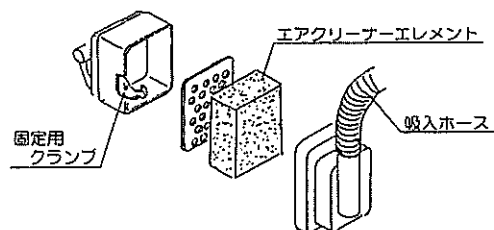
2. エンジンのエアクリーナ（重要）

本機はホコリの多い環境で使用されるため、エアクリーナの点検・清掃が大変重要となります。下記に従い、作業前には毎日点検・清掃を行ってください。

守らないと、エンジンが不調となるばかりでなく、エンジンの摩耗が早まり寿命が大きく低下する原因となります。

◆クボタエンジンの場合

- ①クボタエンジンの場合、エアクリーナー用延長ホースを装備しております。運搬車への搭載の項（9ページ）でも記載しましたようにホース吸入口ができるだけ本機散布口や運搬車のマフラー排出口から離れた位置にセットしてあることを確認してください。また、雨水が入らないよう吸入口は下向きにしてください。
- ②エアクリーナーエレメントは灯油または軽油でよく洗い、乾燥させてからエンジンオイルに浸し、固く絞ってからエアクリーナーにセットしてください。



注意

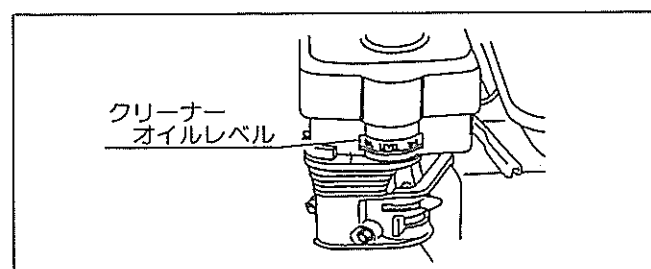
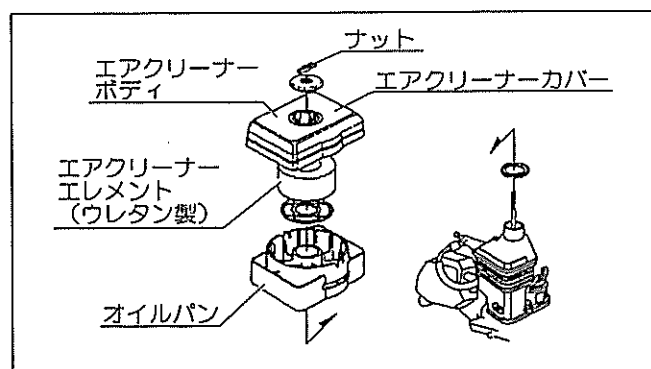
エアクリーナーフタ固定用クランプは、確実に固定してください。
不十分ですと、ゴミ等を吸込んでシリンダーライナーやピストンリングの摩耗を早め、出力不足になります。

◆ホンダエンジンの場合

- ①オイルパンを軽油で洗い、乾燥させてください。
- ②オイルパンにきれいなエンジンオイルをオイルレベル（約60ml）まで給油し、取付けてください。
- ③エレメント（ウレタン製）は軽油でよく洗い、圧縮空気を吹き付けるか、またはよく絞って乾かし、きれいなエンジンオイルに浸した後、固く絞って取り付けてください。

注意

エレメントにオイルをつけすぎますと、目詰まりの原因となります。



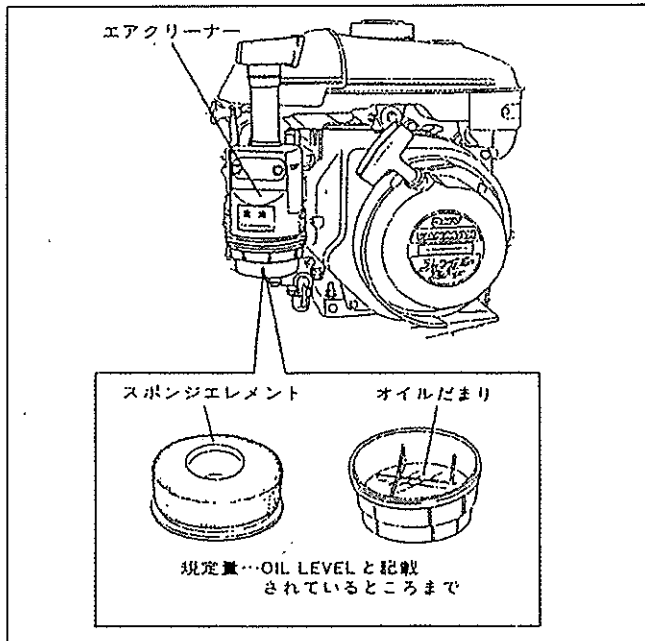
注意

組付け後は、ナットを確実に締付けてください。
締付けが不十分ですとゴミ等を吸込んでエンジンが早く摩耗する原因となります。

簡単な手入れと処置

◆ヤンマーエンジンの場合

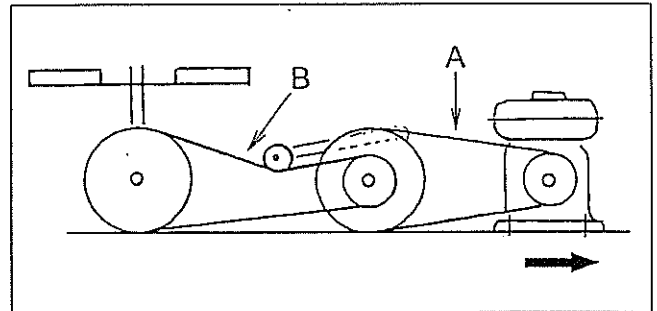
- ①中のスポンジを外し、自灯油で洗い、スポンジの自灯油を振切って取付けてください。
- ②同様にオイルだまりもよく洗浄し、新しいエンジンオイルをオイルレベル（約50ml）まで入れて下さい。
使用エンジンオイルはSC級以上としてください。



注意

オイルだまりは固定用クランプで確実に固定してください。
不十分ですと、ゴミ等を吸込んでシリンダーライナーやピストンリングの摩耗の原因となります。

3. Vベルトの張り調整



Vベルトの調整は下表に従い行ってください。Vベルトに損傷がある場合は早めに交換してください。

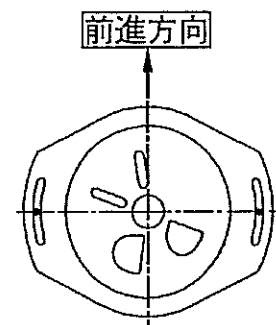
場所	ベルトサイズ	本数	調整方法
A	クボタエンジン A-33	1	ゆるんでいる場合はエンジン取り付けボルトをゆるめ、エンジンを後方へ移動させてベルトを張ってください。 ベルトの中央部を指で押し（約3kg）10～15mmのたわみとなるようにしてください。
	ホンダエンジン A-32	1	
	ヤンマーエンジン A-30	1	
B	LA-35	1	テンションクラッチとなっております。入力クラッチを「入」にしたとき回転が伝わり、「切」にしたとき切れることを確認してください。

4. 散布方向の調節

肥料の種類や比重の違いにより、散布肥料の分布中心が片寄りすることがあります。

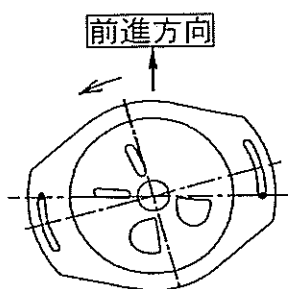
もし片寄りが発生する場合は、次の図を参考にホッパー底板の肥料の落下口穴位置を動かして調節します。

《標準出荷状態》

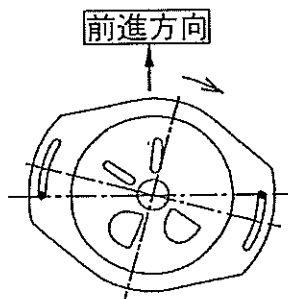


簡単な手入れと処置

《右に散布中心が片寄りする場合》



《左に散布中心が片寄りする場合》



5. 肥料について

- ① 肥料は湿気が少なく、乾燥後粒度が均一で、塊や異物の混じっていないものを使用してください。
- ② 湿った肥料や、ビニール片等の混入した肥料は散布ムラの原因になりますので使用しないでください。

注意

湿った肥料は、ホッパー内でブリッジ現象や詰まりを起こしやすく、またビニール片等はアジテータに巻き付いたりして不均一散布の原因になります。

6. 運搬車のエンジン保守点検（重要）

フルーツキャスタは、肥料散布作業中ホコリを多量に発生します。

このため、フルーツキャスタ駆動エンジンだけでなく、運搬車のエンジンも多量のホコリを吸込む場合があります。エアクリナーの点検、清掃が大変重要となります。
作業前には毎日点検掃除を行ってください。

守らないとエンジンが不調になるばかりでなく、エンジンの摩耗が早まり、寿命が大きく低下する原因となります。
点検、掃除の方法は運搬車（エンジン）の取説を参照してください。

7. 日常の管理について

- シャッター部に水分が付着していると、肥料の繰出しが悪くなります。
水分や付着物を乾いた布で拭き取ってから使用してください。
- スピンナーファンに肥料が付着していると散布性能が変化します。いつも、きれいにしておいてください。
- 使用後は、ホッパー内に肥料を残したまま放置しないでください。肥料が固まって故障の原因となります。
- 作業終了後は、常に掃除をするように心掛けてください。
- 雨中での作業ならびに屋外での保管は避けてください。
守らないと、散布する肥料により、エンジンキャブレターの不調をきたす場合があります。
- 降雨中作業された場合は作業終了後、エンジンが冷えてからエンジンキャブレターまわりを必ず水洗いするようにしてください。

警告

残った肥料の取出しや掃除をするときは、入力クラッチを切り、エンジンを完全に停止させてから行ってください。

8. 長期格納時の手入れ

長期にわたって、ご使用にならない時は次のことを行い本機を保管してください。

- 水洗いをし、付着した肥料やホコリなどを落とし、異物を取除いてください。

簡単な手入れと処置

- ☆苛性カリを含んだ肥料を散布した後は、特に念入りに水洗いを行ってください。
- 乾燥後は、各回転・摺動部には十分注油し、錆びないようにしてください。
- 塗装のはがれた部分には、補修塗料等を塗って錆びが出ないようにしてください。
- 各部のボルト、ナットが緩んでいないかを確認し、緩んでいるときには締めてください。
- エンジンの燃料タンクからガソリンを完全に抜いてください。また、燃料パイプ等に残ったガソリンはエンジンを始動し使い切ってください。
- 格納する場所は、雨や埃のかからない屋内に保管してください。
- 格納は、平坦なところで保管してください。

不調診断

不調内容	診断	処置	参照ページ
●散布跡に濃淡がある	●散布幅に対し、重複散布をしていない	●有効散布幅に対し適切な重複散布幅を設ける	14
●散布量が安定しない	●アジテータ・シャッター開口部に異物が絡まっている ●ホッパー内で湿った肥料が詰まっている	●エンジンを止めて異物の除去 ●乾燥した肥料に入れ替える	—
●散布量が少ない	●上記項に同じ ●シャッターの開口穴より、肥料の粒径の方が大きい (少量散布の時) ●ベルトがスリップする	●上記項に同じ ●シャッター開度を十分、大きくして作業速度を速くする ●ベルトの張りを調整する	— 12～13 18
●散布幅が狭い	●スピナーファンが摩耗している ●エンジン回転速度が出ていない ●ベルトがスリップする	●新しい部品と交換 ●エンジン回転速度を上げる ●ベルトの張りを調整する	22 — 18
●エンジンが始動しない	●燃料タンクにガソリンが入っていない ●燃料コックが「閉」になっている ●燃料に水などの不純物が混入している ●点火プラグが悪くなっている ●エンジンスイッチが「OFF」になっている。	●ガソリンを補給する ●燃料コックを「開」にする ●水抜きまたは新しい燃料にする ●点火プラグを外し、火であぶるか、乾いた布などでよく拭き乾燥させる ●点火プラグのすき間を調整する ●エンジンスイッチを「ON」にする	(エンジンの取説) " " " " 10
●エンジンの定格出力が出ない	●エアクリーナが目詰まり ●チョークが戻っていない	●エレメントを清掃する ●チョークを戻す	17 (エンジンの取説)

付 表

1. 主要諸元

品 名		フルーツキャスト		
型 式		FC1210		FC1210Y
機 体 寸 法	全 長 (mm)	1165		
	全 幅 (mm)	880		
	全 高 (mm)	725		
質 量 (kg)		50 (クボタ)	53 (ホンダ)	51 (ヤンマー)
有 効 散 布 幅 (m)		8 (最大)		
作 業 速 度 (km/h)		1～4		
作 業 能 率 (分/10a)		3.1～12.5		
エ ン ジ ン	メ ー カ ー	クボタ	ホンダ	ヤンマー
	種 類	空冷4サイクルガソリンOHV		
	定 格 出 力 (kW/min ⁻¹ {ps/rpm})	1.0/1800 {1.4/1800}	2.1/1800 {2.8/1800}	1.7/1800 {2.3/1800}
	最 大 出 力 (kW/min ⁻¹ {ps/rpm})	1.6/1800 {2.2/2100}	2.9/1800 {4.0/2000}	2.6/1800 {3.5/2100}
	始 動 方 式	リコイル式		
	設 定 回 転 速 度 (min ⁻¹ {rpm})	1700		
散 布 部	ホ ッ パ ー 容 量 (ℓ)	120		
	最 大 積 載 量 (kg)	100		
	散 布 方 式	スピナー方式		
	スピナー回転速度 (min ⁻¹ {rpm})	500 (エンジン 1600)		
	散 布 方 向	全面		

※この主要諸元は改良などにより、予告なく変更することがあります。

2. 主な消耗部品

部 品 名 称	部 品 コ ー ド	数 量	備 考
Vベルト (エンジン→中間プーリー・ホンダ用)	036100010320	1	A-32
Vベルト (エンジン→中間プーリー・クボタ用)	036100010330	1	A-33
Vベルト (エンジン→中間プーリー・ヤンマー用)	036100010300	1	A-30
Vベルト (中間プーリー→散布ミッション)	036102110350	1	LA-35 (オレンジ)
スピナーファン	231023121001	3	